

⑨ 蜂巢状/亀甲状

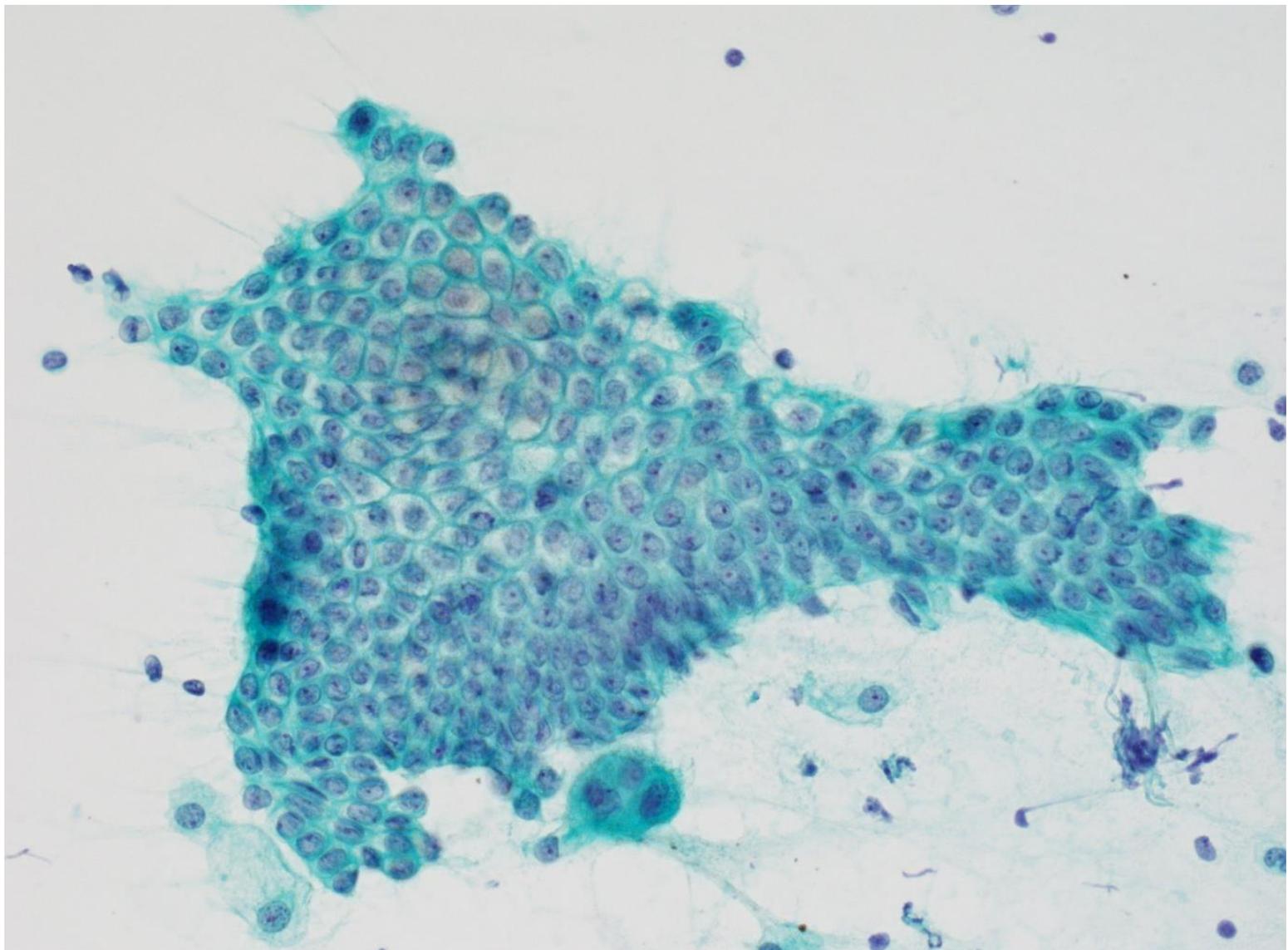
・細胞学的定義

中心性核、明瞭な細胞境界がみられる平面的な細胞集塊で、蜂の巣や亀の甲羅のようにみえる。

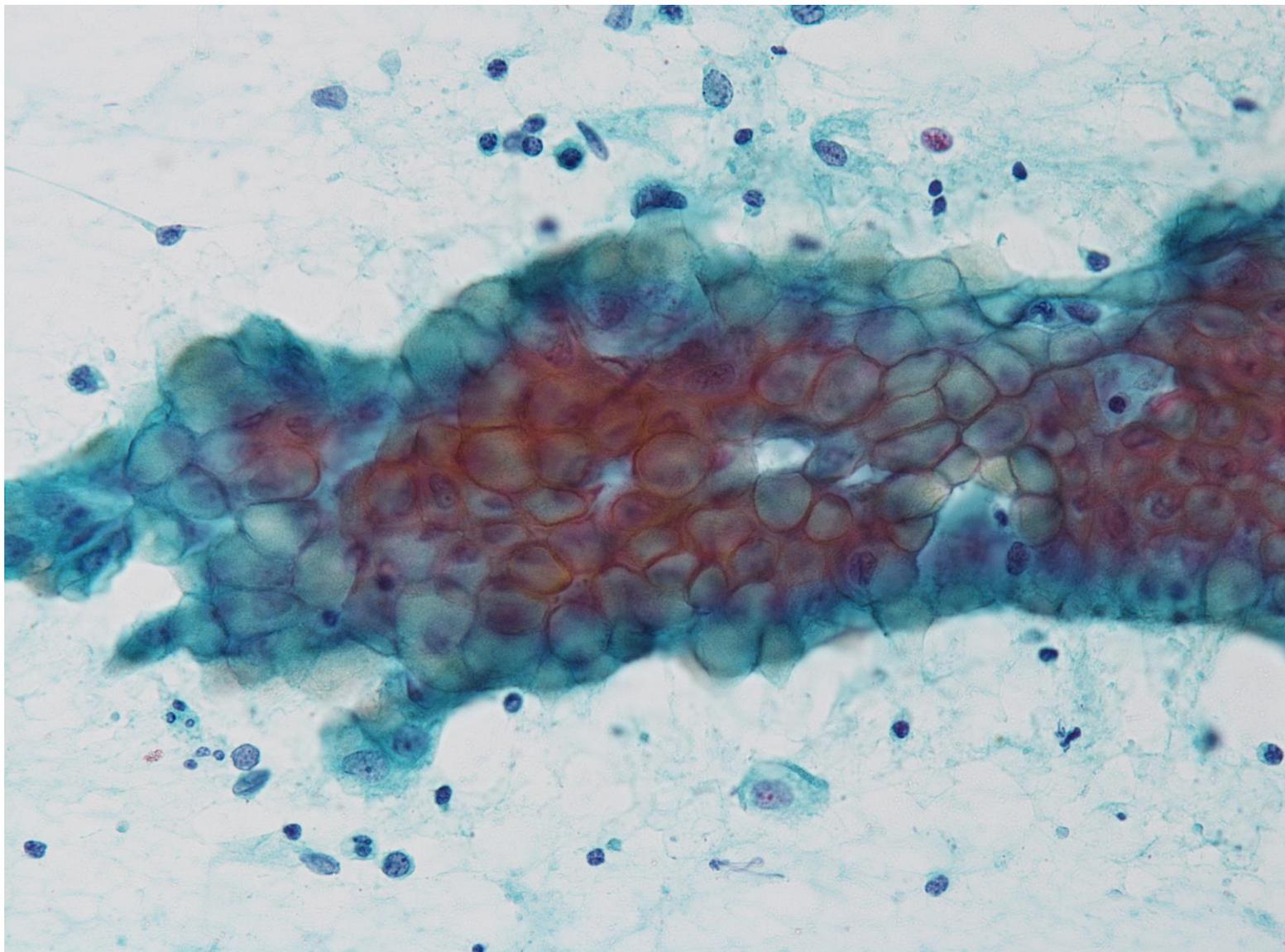
・組織型の推定と補足

組織学的に腺癌では、浸潤性粘液性腺癌、稀に上皮内腺癌（粘液性）や微小浸潤性腺癌（粘液性）で認められる。また、胎児型腺癌でもみられることがある。

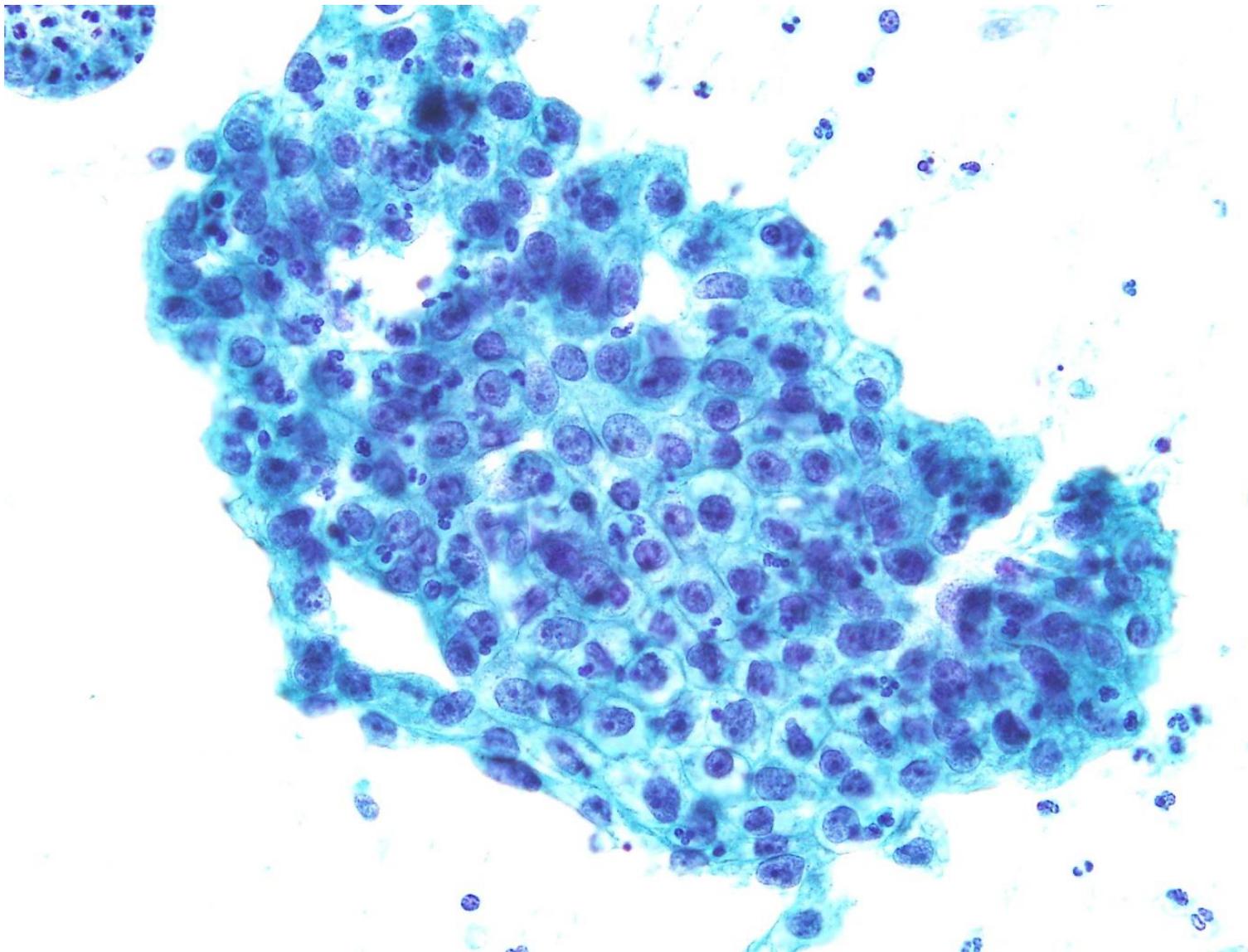
細胞学的に顕微鏡でフォーカスを合わせるため上下させて、ピントの合った部分で、細胞膜が明瞭なものをいう。立体的な集塊を表現するため、実際は今回のように写真で説明することが難しい場合もある。一般的に扁平上皮癌では、この蜂巢状/亀甲状の構造を呈することはない。



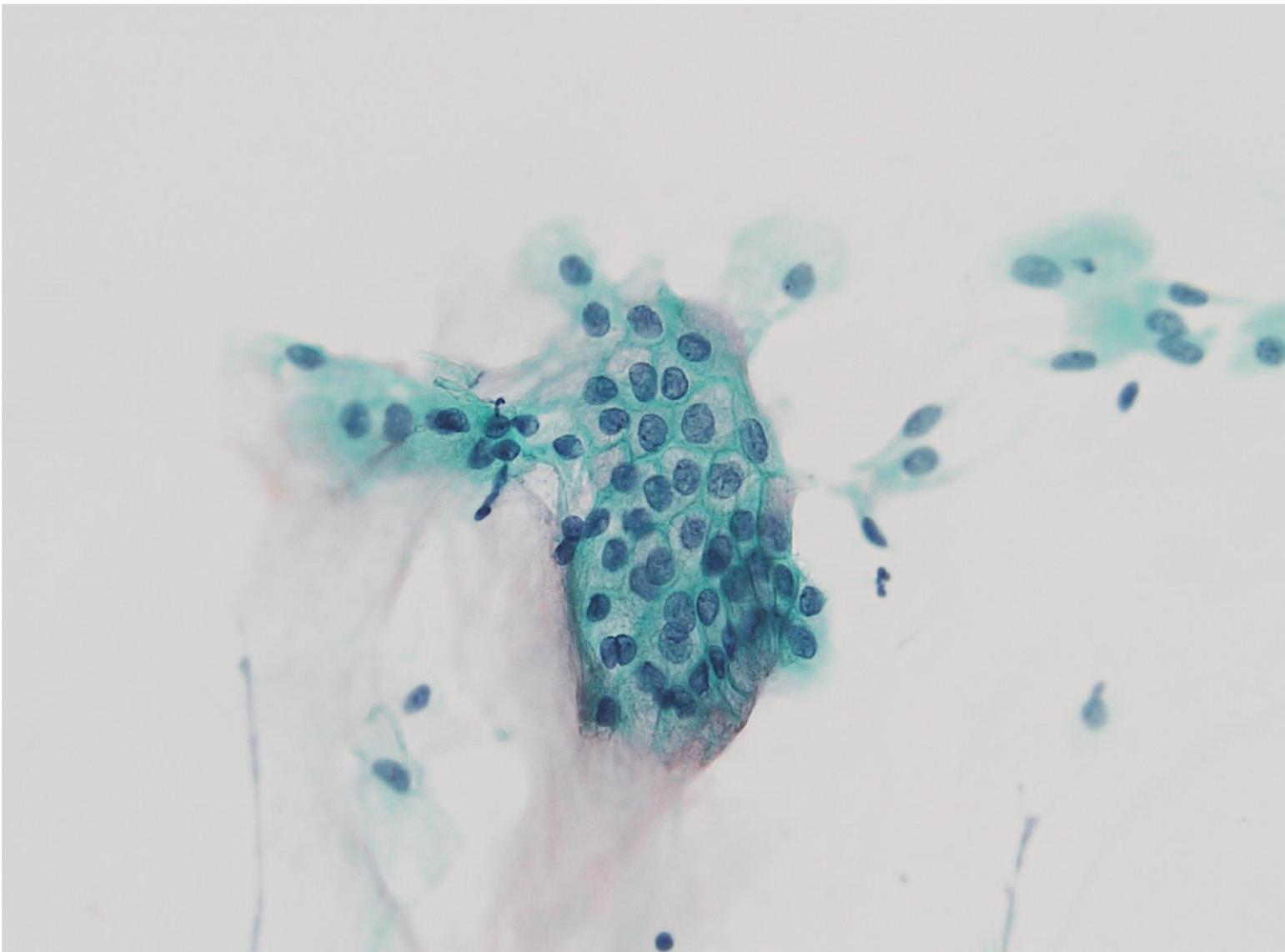
定型例 ⑨-1 (捺印、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率100%) :
シート状に配列する大型細胞集塊である。細胞境界は明瞭で、核を中心性に認める。蜂巢状と判定する。



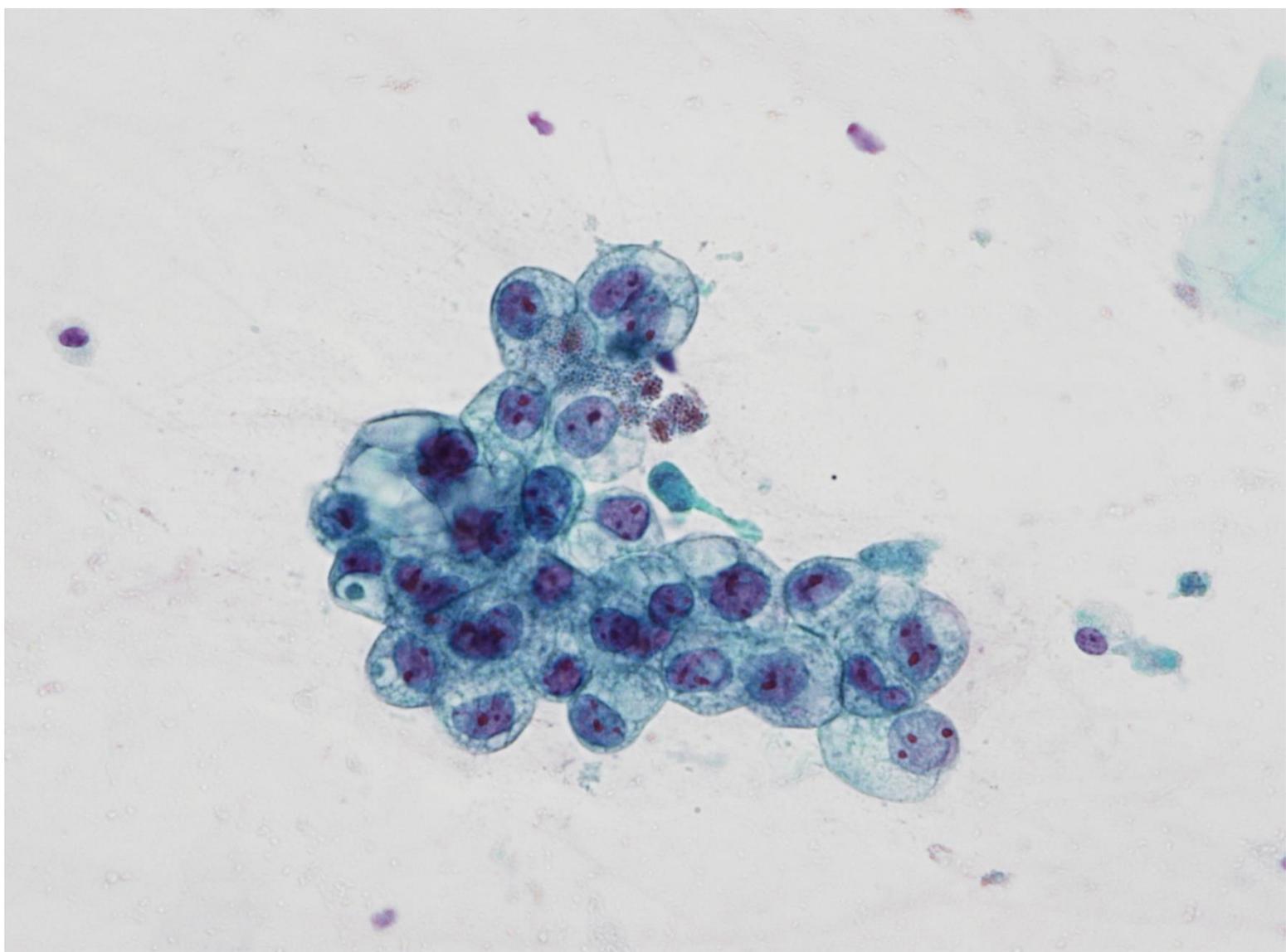
定型例 ⑨-2(擦過、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率100%):細胞膜にピントが合った部分で写真を撮影している。細胞膜は非常に明瞭であるが、なんとなくみえる核とみえない核がある。蜂の巣に類似しているため蜂巢状と言える。



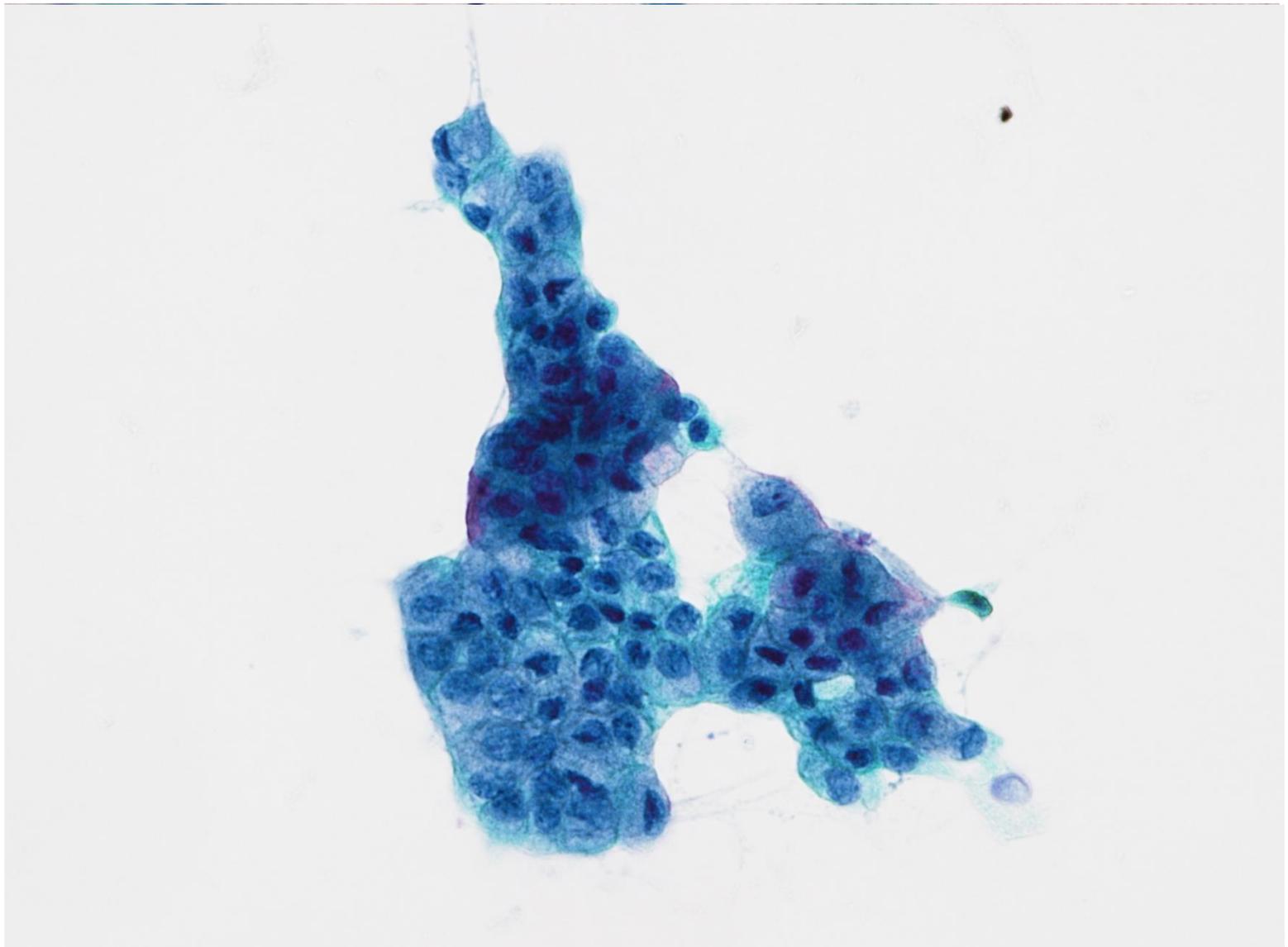
定型例 ⑨-3(擦過、胎児型腺癌、用語の一致率90%): 大型細胞集塊内の中央部～右下にかけて、細胞境界が明瞭であり、核は細胞の中央に認められる。蜂巢状と判定する。尚、細胞質にはグリコーゲンがみられる。



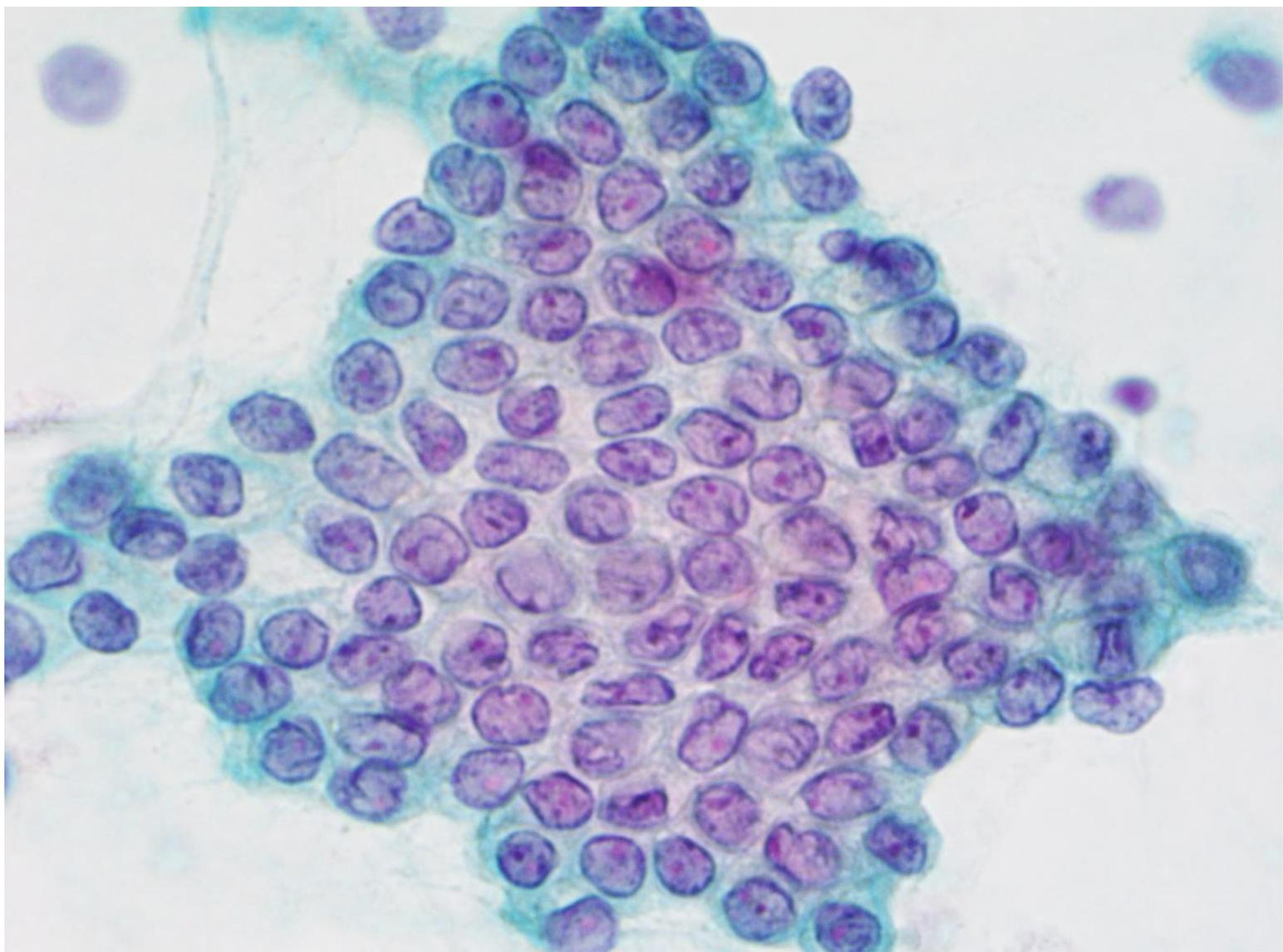
定型例 ⑨-4(穿刺、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率100%): 中型細胞集塊であるが、細胞境界は明瞭で、核は細胞の中心性に認められる。蜂巢状と判定する。



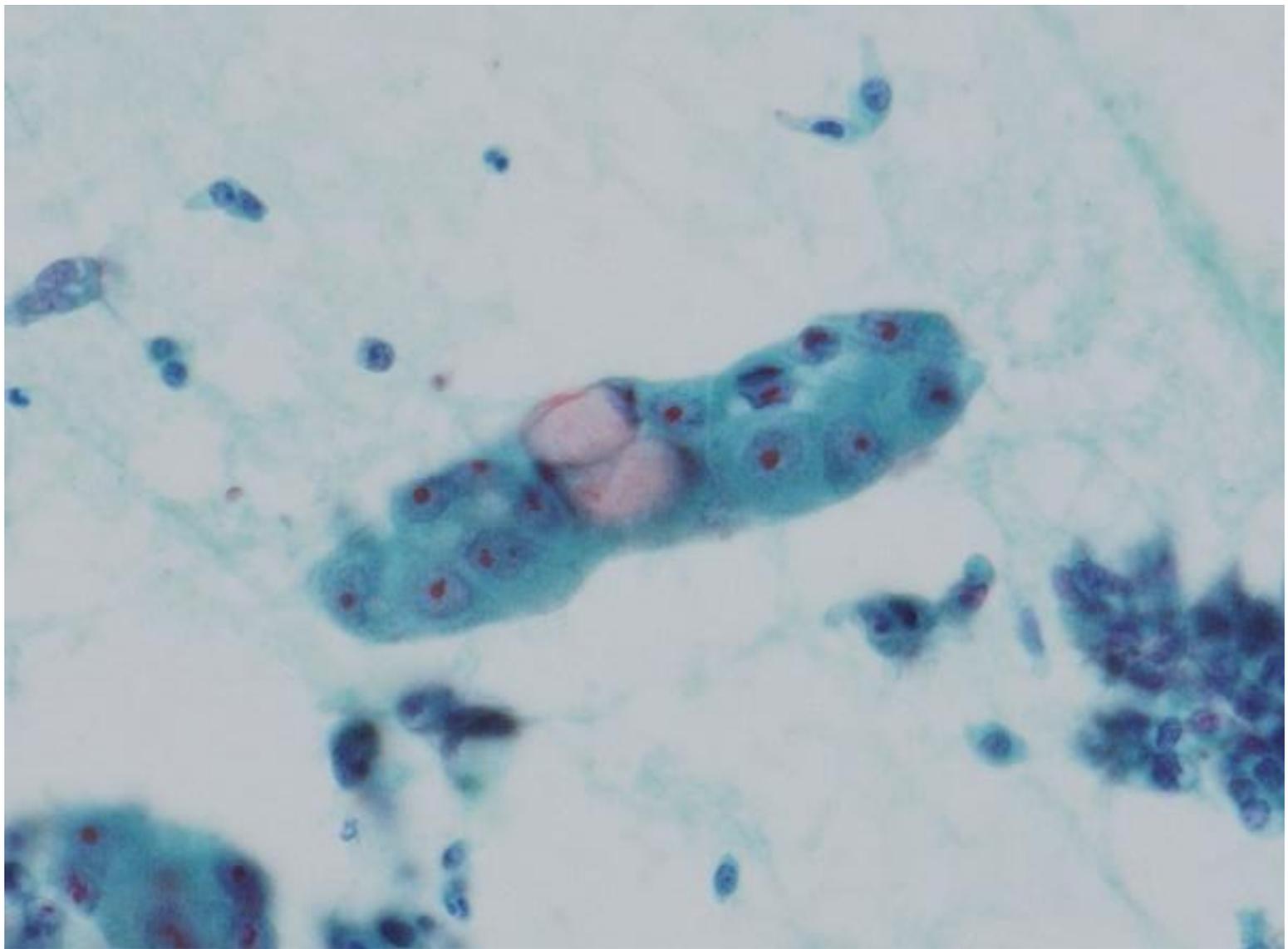
⑨-5(喀痰、腺癌、用語の一致率40%):細胞集塊内では細胞膜の不明瞭な部分がみられる。また、核の偏在傾向や配列の乱れがみられ、蜂巢状構造とは言えない。



⑨-6(擦過、腺癌、用語の一致率60%) : 比較的平面的な大型細胞集塊であるが、細胞膜が明瞭な部分と、不明瞭な部分が認められる。細胞質内の一部には、粘液もみられる。診断者間で意見の分かれる細胞集塊である。



⑨-7(捺印、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率40%):シート状に配列する細胞集塊であるが、この写真では細胞境界が不明瞭であるため、蜂巢状とは言えない。このような例では実際の顕微鏡でピントを細胞膜に合わせてよく観察することが大切である。



⑨-8(擦過、浸潤性粘液性腺癌、用語の一致率10%): 小型細胞集塊内には、中心性の核がみられ、比較的規則正しく配列しているが、細胞境界は不明瞭である。蜂巢状とは判定しない。